

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

13

帽子の色 白

帽子の色 青

金沢市立工業高等学校

18

3	—	2
3	—	3
6	—	4
6	—	3
ps		

鳥羽高等学校

12

審判1: 福元 寿夫

審判2: 井上 嘉隆

戦 評

大会3日目の第1試合は、両校ともインターハイ優勝経験のある金沢市立工業高校対鳥羽高校の対戦となった。強力フローターを中心に攻めてくる金沢工業を伝統の鳥羽ディフェンスがいかに抑えるか、目が離せない一戦である。

第1ピリオド、金沢工業は日本代表の⑨宮澤拓夢君をスターティングメンバーからを外す作戦にでる。センターボールは鳥羽。試合がいきなり動く。7:38鳥羽⑥岡本君が5mシュートをループシュートで決めると、7:18金沢工業③笠間君から⑧原君にジャストパスが通り得点。6:55金沢工業はパワープレー中にシュートを放つもキーパーがセーブ。その後、鳥羽は5対4のカウンターを出す、シュートが枠外に飛び得点出来ない。逆に、金沢工業は2対1のカウンターを出し、④佐賀君がしっかりと決める。2:26パワープレー中に鳥羽⑦藤原君が決め同点に追いつく。0:12金沢工業②浦君が退水を誘発し、タイムアウト。これを右ポストに位置していた⑤新田君が決めて、3-2金沢工業1点リードでピリオドを終える。

第2ピリオドもセンターボールは鳥羽⑩渡邊君が取り開始。ここから金沢工業は、右サイドから③笠間君、カウンターで⑤新田君、②浦君が3連続得点する。鳥羽は流れが悪いとみてタイムアウト。するとその後、パワープレー中に⑤山本君、カウンターから④藤井君、⑩渡邊君が3連続得点し流れを引き戻す。このピリオド3-3、合計6-5の金沢工業1点リードで前半を終える。

第3ピリオドもセンターボールは鳥羽。7:05金沢工業⑦嶋本君、6:35鳥羽⑩渡邊君がミドルシュートを決める。5:44鳥羽④藤井君がフローターシュートを決め、遂に同点に追いつく。しかし、金沢工業は4:56と3:51に③笠間君、3:14⑨宮澤拓夢君が決め、3点リードに広げる。2:47鳥羽⑩渡邊君のスーパーミドルが決まり盛り返す。すぐさま2:27金沢工業③笠間君が決め返す。0:47にもパワープレー中に⑧原君が決め、リードを4点に広げる。0:15鳥羽はタイムアウトを取り最後の攻撃にでる。すると0:01で②竹村君の5mシュートが決まり、合計12-9の金沢工業3点リードで終える。

最終ピリオド、先制点がほしい鳥羽は7:37⑩渡邊君の5mシュートで2点差に迫る。しかし、第2・3ピリオドと同様に金沢工業はここから⑨宮澤拓夢君、⑦嶋本君、⑧原君らが4連続得点を挙げる。鳥羽もパワープレー中に⑩渡邊君が決めるも、⑨宮澤拓夢君が得意のフローターで取り返す。鳥羽はまたまた⑩渡邊君がフローターで決めるも、金沢工業⑩宮澤希望君が返し、試合終了。合計18-12で金沢市立工業高校が勝利し、ベスト4を決めた。

両チームとも我慢強く、最後まで戦い抜いた姿に拍手を送りたい。

記載者

清水 信貴

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

14

帽子の色 白

帽子の色 青

埼玉栄高等学校

14

3	—	1
2	—	3
4	—	3
5	—	6

ps

大垣東高等学校

13

審判1: 齋藤 好史

審判2: 伊藤 晃二

戦 評

準々決勝第2試合はカウターの埼玉栄とセットの大垣東。第1ピリオドの開始は両チームらしい攻撃で始まる。まずは大垣東がセンターボールを取ると、④大角君がセンターに構える。埼玉栄ディフェンスが警戒したところをすかさず⑩竹内君がミドルシュートを放つが、これは外れる。その裏の攻撃。埼玉栄は持ち味のカウンター攻撃で大垣東ゴールをこじ開ける。②今君が右サイドを駆け上がると、中央で待ち構える④藤井君にパスを送ってシュート。埼玉栄が先制点を挙げる。大垣東は④大角君を起点に退水やミドルシュートを狙うが埼玉栄ディフェンスに阻まれる。2点を追う大垣東は⑤安藤君が埼玉栄のお株を奪うカウンター攻撃で得点を挙げ、1点を返す。さらに大垣東は⑤安藤君がミドルシュートを放ちゴールインしたかに見えたが、これはゴールラインを割らず。埼玉栄は2点のリードで第1ピリオドを終える。

続く第2ピリオド、両チームとも決め手がないまま3分が経とうかというところ、大垣東⑩竹内くんが左サイドからゴール右の空いたスペースに狙いすましたシュートを放って1点差に詰め寄る。対する埼玉栄は②今君がフリーになったところを右45度からハーフループシュートを決めて2点リードとする。なんとか追いつきたい大垣東は、埼玉栄ディフェンスが④大角君を警戒し下がり気味になったところを⑦森田君がミドルシュート、埼玉栄のカウンターで絶対絶命のピンチを大垣東の守護神①西脇君がしっかり止めると、反対に大垣東⑦森田君がカウンターからミドルシュートを決めて同点に追いつく。しかし、残り1分を切ったところで、埼玉栄カウンターに大垣東ゴールキーパーが5m付近まで飛び出し痛恨のペナルティファール。これを④藤井君が決めて、埼玉栄1点リードとなる。

第3ピリオドも接戦が続く。埼玉栄がコーナースローからセット攻撃のチャンスを得ると、⑥中山君が左ポストでボールを受けて反転しシュートを決める。大垣東も⑨小林幹太君がゴール前を横切るクリアリングドライブでディフェンスの気をひくと、⑩竹内君がミドルシュートを決めて追いつく。埼玉栄は後半、泳力が落ちるかと思われたが、前半と変わらず積極的に飛び出すカウンター攻撃で大垣東を突き放しにかかる。④藤井君からゴール前にドライブした⑥中山君ヘディフェンスの頭上を越える技ありのパスを通して3点差とする。ピリオドの終わりは劇的であった。大垣東は残り7秒でタイムアウト。再開直後の残り2秒に⑤安藤君が左45度から狙いすましたミドルシュートを放って2点差に追い上げる。対する埼玉栄も負けじとタイムアウト。④藤井君が再開直後、ハーフラインから放ったボールがゴールに吸い込まれるが、攻撃側の選手が触れておらず、惜しくもノーゴールとなる。

勝負は第4ピリオドまでもつれ込む。大垣東は、このピリオド1回目の攻撃で⑨小林幹太君が右サイドからゴールキーパーの手を撃ち抜く力強いシュートを放ち再び1点差にする。さらに右サイド⑦森田君から中央④大角君へ折り返しのパス。④大角君がシュートを打つかというところで、腕を押さえられペナルティを得る。これを⑦森田君が決めて同点とする。しかし、埼玉栄は②今君が右サイドからループシュートを決めてリードを奪うと、④藤井君もディフェンスをうまくかわしてシュートを決める。守っては大垣東③伊藤君がカットインから前に飛び出しゴールキーパーと1対1となるが、埼玉栄①田中君が体を張って止める。2:35には埼玉栄④藤井君が、ゴール中央の5m付近ディフェンスの脇を抜くシュートを決めてこれが決勝点となる。大垣東も残り18秒、④大角君がカットインすると⑦森田君からパスを受けて左ヘシュートを決めて1点差とするが、最後は埼玉栄が落ち着いてボールを回しゲームセット。埼玉栄が激戦を制した。

カウンター攻撃とセット攻撃。どちらも水球の面白い部分である。その魅力を存分に味わえる、そして今回は埼玉栄に軍配が上がったが、どちらが勝ってもおかしくない、素晴らしい試合であった。

記載者

荻野 浩明

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

15

帽子の色 白

帽子の色 青

四日市中央工業高等学校

12

3 - 4
4 - 5
1 - 3
4 - 1

ps

秀明英光高等学校

13

審判1: 山崎 昇

審判2: 黒崎 千智

戦 評

昨日接戦を制して勝ち上がった四中工には、試合前から地元の大声援が送られる。しかし、試合は秀明英光得意のカウンターアタックによる3連続得点から始まり、昨日のようなワンサイドゲームの予感も漂わせた。秀明英光の強力なプレスで、四中工はなかなかシュートを打てなかったが、少しずつ緊張もとれ思い切ったプレーが出てきた。そして機動力を活かした攻撃の中で次々と退水を誘発する。3:25には③谷君、2:38⑦後藤君、1:02⑤藤田君がパワープレーで得点を挙げ一気に同点に追いついた(3-3)。秀明英光は残り10秒で③小見君がカウンターアタックから得点し、辛くも1点差で第1ピリオドを終えた(3-4)。

四中工は第2ピリオド開始直後の攻撃で⑦後藤君がカットインからシュートを決めすぐさま同点に追いつくと、次の攻撃では③谷君がゴール前でゴールを決めついに逆転する(5-4)。しかし秀明英光も黙っていない。すぐさま連続得点を挙げ、逆転。その後も点を取っては取られ、どちらも一歩も引かない展開だったが、少しずつ秀明英光が得点を重ねリードしていく。一時3点差までリードを広げるが、四中工は1:16⑥原君がタイムアウト後のパワープレーでシュートのこぼれ球を押し込み2点差(7-9)とし、まだまだ追い上げが続くことを予感させた。

第3ピリオドはこれまでの点の取り合いから一転、両者とも失点を許さない息を飲むラリーが続いた。ピリオドの半分に及ぶ4往復のラリーは、この後両者に大きな疲労を残した。両チームとも意地でカウンターアタックを繰り出す、キーパーのセーブに阻まれてしまう。お互い苦しい時間に秀明英光⑦青山君が退水を誘発し、すぐにパスを受けて自らゴールを決めた(7-10)。その後も連続で失点をした四中工は流れを変えるべくタイムアウト。次の攻撃では②山田君がシュートを決めて3点差に戻したが、秀明英光は再び4点差として最終ピリオドへ(8-12)。

第四ピリオド早々に四中工②山田君がカウンターアタックから得点を挙げ、追い上げムードとなる(9-12)。四中工④畑君ペナルティーシュート、⑤藤田君が個人技で得点し1点差に迫ると会場のボルテージも最高潮に達した(11-12)。試合の最終盤になり、お互いに体力のほとんど残っていない中、秀明英光ゴールキーパー中塚君の好セーブは秀明英光の攻撃に勢いを与えた。2:11②江利川君が気迫のゴールを決め2点差とし四中工を突き放す(11-13)。追いつきたい四中工は③谷君が退水を誘発しタイムアウト。ゴールを決めてなんとか逆転に望みをつなぎたい四中工だったが、シュートは無情にもゴールの外へ。諦めない四中工は次の攻撃で④畑君がペナルティーシュートを決め1点差とするが、試合残り時間30秒。秀明英光が落ち着いて攻めきり、ゲームセットとなった(12-13)。

最大4点の差がつくこともあったが、試合のほとんどの時間が2点差以内で攻防が繰り広げられる手に汗握るクロスゲームだった。四中工、秀明英光ともシュート本数は30本、最終スコアが1点差だったことは、両チームの力が互角だったことを物語っている。四中工は、試合開始直後の連続失点が重くのしかかったが、地元の大声援を受けて最後の最後まで闘争心を見せてくれた。

記者者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

16

帽子の色 白

帽子の色 青

明治大学附属中野高等学校

20

5	—	2
5	—	2
5	—	5
5	—	4
ps		

那覇西高等学校

13

審判1: 佐藤 國寛

審判2: 佐伯 弘幸

戦 評

大会3日目の第4試合は、両チームとも大接戦の末ベスト8を入りを果たした明治大学附属中野高校対那覇西高校の対戦となった。

第1ピリオド、明大中野②太田君がセンターボールを取り開始。那覇西は2対1のカウンターが出て先制のチャンスを迎えるが決めれず。反対に明大中野は、⑤眞板君のミドルシュート、③富永君のカウンターで2得点。那覇西は、パワープレー中にシュートのこぼれ球を拾って⑩伊波君が決め1点差。すぐに明大中野は⑤眞板君からゴール前の⑥熊谷君にパスを通し得点。那覇西は、フリースロー妨害で得た退水チャンス中に、左上②中井君から左中にいた④砂邊利貴君に縦パスを通し、また1点差。その後、明大中野はパワープレー中に⑪遠藤君、④関屋君が得点し、5-2で明大中野3点リードしピリオド終了。

第2ピリオド、明大中野は2対1のカウンターから⑤眞板君が決める。何とかこれ以上離されたくない那覇西は④砂邊利貴君がカットインからゴールを挙げる。離しにかかりたい明大中野は⑤眞板君と⑦矢作君で3得点する。ここで那覇西は、タイムアウトを取って落ち着き、④砂邊利貴君のカットインで1点を返す。さらに、カウンターチャンスがあったが、生かせず。逆に、明大中野⑥熊谷君がカウンターから得点する。合計10-4、明大中野6点リードに広げ前半終了。

第3ピリオド、6点差を何とか縮めたい那覇西。しかし、明大中野が⑥熊谷君のフローターで先制。明大中野は準決勝を見据え、メンバー交代をする。この間に差をつめたい那覇西は⑦奥君、⑥仲本駿之介君のカウンターで2得点する。5点差に詰め寄られた明大中野は、スイッチが入る。多彩な攻撃で⑪遠藤君、⑤眞板君、⑫狭間君らが4連続得点し、9点差にリードを広げる。那覇西の集中力が切れるかと思われたが、1:05⑨砂邊十雅君がゴール前で踏ん張りペナルティを誘発し、これを④砂邊利貴君が決め息を吹き返す。続けて、0:35にカウンターで⑧金城君、0:08に③仲本虎次郎君が決め、このピリオド5-5の同点。合計15-9、明大中野6点リードで終了。

第4ピリオド、那覇西はゴール前に下がらずオールコートプレスに出る。激しいプレスをしかけるが、明大中野③富永君はディフェンスをつけたままミドルシュートを決める。負けじと、那覇西③仲本虎次郎君が5mシュートで得点。パワープレー中に明大中野⑤眞板君、カットインで那覇西④砂邊利貴君が得点。取っては取られての展開が続く。その後も状況は変わらず、明大中野④関屋君、那覇西⑦奥君、明大中野③富永君、那覇西④砂邊利貴君と交互に点数を取り、6点差は縮まらない。最後は、明大中野②太田君がカウンターから得点し、ゲームセット。明治大学附属中野高校に軍配が上がった。

那覇西は後半のような戦いが前半から出来なかったことが悔やまれる。次の準決勝、明治大学附属中野高校は、ブロック予選でペナルティースロー対決により勝利している秀明栄光高校と激突する。

記載者

清水 信貴

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

17

帽子の色 白

帽子の色 青

金沢市立工業高等学校

21

7	—	2
5	—	1
4	—	5
5	—	3
ps		

埼玉栄高等学校

11

審判1: 井上 嘉隆

審判2: 黒崎 千智

戦 評

第1ピリオドは埼玉栄③大村君がセンターボールを取り試合開始。この埼玉栄の攻撃を守った金沢工は次の攻撃で⑦嶋本君が力強いゴールを決めた。埼玉栄はすぐに退水を誘発し、②今君から⑨田中君に絶妙のパスが通りゴールを決め(1-1)、激しい試合展開の予感がする。その後も両者得点が続けるが、金沢工は4:41②浦君のゴールを皮切りに連続得点を重ねる。要所要所で埼玉栄も反撃を試みるが、金沢工は落ち着いた試合運びでこのピリオドを支配し続けた(7-2)。

第2ピリオド、埼玉栄は金沢工の強いプレスの前になかなか意図したパス回しができなかったが、5:19④藤井君がカウンターで得点を挙げて意地を見せる(8-3)。お互い決定的な見せ場を作れないなか、2:33にはゴール前からのロングパスを受けた⑨宮澤拓夢君がペナルティーファールを誘発して、自らペナルティーシュートを決めた(10-3)。悪い流れを止めたい埼玉栄は直後にタイムアウトを取るが、その後のオフェンスでは痛恨のパスミス。金沢工はそのミスを逃さず得点につなげ、ジリジリと点差が広がっていった。その後も金沢工⑤新田君がカウンターアタックで得点し、パワープレーのディフェンスではゴールキーパー①三谷君が好セーブを披露して埼玉栄を寄せ付けず、試合の大勢を決めたかに見えた(12-3)。金沢工のカウンターアタックは、ボールを運ばない選手が動きのスピードを上げてディフェンス選手をしっかりと引きつけ、オフェンス同士の間隔を常に意識しながら展開されており、シュート場面では落ち着いてキーパーをかわすようなシュートを放っていた。この巧みなカウンターアタックが金沢工の得点源の一つであり、強さの要因と言える。

続く第3ピリオド、金沢工はメンバーをスターティングメンバーから大幅に変更。埼玉栄はそれを咎めるかのように、④藤井君が開始直後にゴールを決める(12-4)。そのまま点差を縮めたいところであったが、金沢工のカウンターアタックはこれまでの勢いを失っていなかった。一方の埼玉栄も負けてはいない。6:15には埼玉栄⑫田谷君が退水を誘発し、折返しパスを受けて自らゴール(13-5)。続けて⑥中山君もゴールを決めた。金沢工はパスミスが目立つようになるものの、カウンターアタックの勢いは依然衰えず、両校お互いに点を取り合って点差は縮まらない。一進一退の攻防が続いた。

第4ピリオドはメンバーの半数をスターティングメンバーに戻した金沢工。開始直後に⑨宮澤拓夢君が得意の角度から豪快なシュートを決めるとその後も金沢工は攻撃の手を緩めず得点を重ねた。埼玉栄も最後の最後まで攻撃を続け、試合終盤には④藤井君、⑦太田剣弥君と得点するも得点差を縮めることができなかった。

埼玉栄は多彩な選手起用で緻密な作戦をオフェンスにおいてもディフェンスにおいても実践したが、金沢工は緩急自在のオフェンスを展開して終始埼玉栄のディフェンスを翻弄し続けた。関東4位の埼玉栄を寄せ付けない金沢工は驚異的な強さであることは間違いない。明日の決勝戦はインターハイ3連覇を掛けた戦いとなる。

記者者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

18

帽子の色 白

帽子の色 青

明治大学附属中野高等学校

11

3	—	2
3	—	3
4	—	2
1	—	5
ps		

秀明英光高等学校

12

審判1: 齋藤 好史

審判2: 山崎 昇

戦 評

準決勝2試合目は、同ブロックの明治大学附属中野高校と秀明英光高校の対戦となった。両チーム共に多彩な攻撃パターンをもち、どこからでも点数が取れる。水球競技の魅力が存分に味わえる一戦になるであろう。

第1ピリオド、明大中野②太田君がセンターボールを取り開始。フリースロー妨害からパワープレーのチャンスを得るも決めれず。シュートのこぼれ球が明大中野の前にボールが落ち、キーパーが思わずペナルティを犯す。これを⑤眞板君がゴール右上にしっかりと決める。一進一退の攻防が約4分続いた後、パワープレーで右上から④関屋君が得点。続けて⑥熊谷君がカットインから踏ん張ってゴールイン、3-0とする。これで終われない秀明英光は⑪中村君の5mシュートで得点、パワープレーで③小見君が決め、3-2とし終了。

第2ピリオド、秀明英光は開始直後に③小見君がループシュートを決め、同点に追いつく。さらに、⑦青山君のこれまたループシュートで得点、逆転に成功する。しかし、明大中野もカウンターから③富永君が決め同点にすると、パワープレーで⑦矢作君が左上から決めて逆転。両チームよく泳ぎ、チャンスを作るもなかなかシュートが入らない中、決めたのは明大中野キャプテン⑤眞板君、これで2点リード。しかし、秀明英光のキャプテン③小見君も譲らず、フローターシュートを決める。合計6-5、明大中野1点リードで前半終了。

第3ピリオド、先制したのは明大中野。⑤眞板君がカウンターで得点。リードを広げたい明大中野だが、秀明英光⑦青山君がミドルシュートをゴール左下に決める。しかし、明大中野③富永君が5mシュートを決め、続けてミドルシュートを豪快に決めて3点差とする。これ以上差を広げられてくない秀明英光はカウンターから⑥千歳君が得点する。0:11明大中野タイムアウト。再開から0:03で③富永君が5mシュートでゴールネットを揺らす。③富永君はこのピリオド3得点と大爆発。合計10-7、明大中野3点リードで終了。

運命の第4ピリオド、秀明英光③小見君がペナルティシュートを決めて先制し、2点差とする。ターンオーバーで退水を誘発した明大中野は、ここでタイムアウト。決めて差を広げたいところだったが、シュートはバーに当たる。逆に、秀明英光はパワープレーで⑪中村君が決めて1点差に詰め寄る。どちらも譲らない展開に会場の応援もヒートアップ。大声援を受けながら、秀明英光⑪中村君が5mシュートを決め、さらに4対3のカウンターでまたまた⑪中村君が決めて4連続得点。遂に秀明英光は逆転に成功する。黙っていないのは明大中野⑤眞板君、パワープレー中に左サイドから得点し同点とする。意地と意地のぶつかり合いの中、次に決めたのは秀明英光1年生の⑪中村君。このピリオド4得点、とんでもない1年生である。これが決勝点となり、合計11-12で秀明英光高校が決勝へと駒を進めた。

明日の決勝戦は3年連続同じカードとなる。2連覇中の金沢市立工業高校、秀明英光高校は3連覇を阻止できるのか。決勝戦から目が離せない。

記者者

清水 信貴